

地理歴史科・公民科（歴史総合）学習指導案

1 単元名（主題名） 19世紀後半～20世紀前半の日系アメリカ人 ～移民・統合と分化～
この単元は、歴史総合「2 内容」の「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」の「(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」に該当する。

2 単元目標

- (1) アメリカ合衆国における日系移民の受け入れと排斥の変遷から、19世紀後半から20世紀の国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。
- (2) 日系アメリカ人を例に、移民問題の背景や原因、結果や影響などに着目して、複数の資料を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現する。
- (3) 移民の受け入れや外国人参政権といった現代の問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元計画(全体2時間)

(1) 指導計画

- ・日系移民の誕生とアメリカ合衆国における移民排斥 0.5時間
- ・第二次世界大戦と日系人 0.5時間
- ・二人の日系アメリカ人の生き方と現代の移民問題 1時間（本時1/1）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・アメリカ合衆国における日系移民の受け入れと排斥の変遷や、19世紀後半から20世紀の国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解している。	・日系アメリカ人を例に、移民問題の背景や原因、結果や影響などに着目して、複数の資料を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現している。	・移民受け入れ問題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (0.5時間)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【学習課題】<単元を貫く問い>「なぜ自由の国アメリカで、日系移民は排斥されたのか」 </div> ・日系移民の誕生からアメリカ合衆国における移民排斥までの歴史	【ねらい】日系移民の課題について学習意欲を高めるとともに、移民のおかれた経済的背景に気づき、アメリカ合衆国における移民排斥の理由を予想する。 ・日系移民の出身地から、移民が生まれた理由を推測する。 ・日系移民の向かった地域を時間的推移を踏まえ理解する。 ・日系移民のついで職業を知る。 ・映像や史料からアメリカ合衆国における移民排斥の実態を読み取る。 ・アメリカ合衆国において移民排斥がおこった理由を予想する。				● (B) 基本的な史資料の読解を通じて、学習課題への関心を高めている。 (C) 授業のねらいや課題の意義を再確認するなどの支援を行う。 ● (B) 移民排斥について、言語や文化の違いや、経済的な社会貢献の有無が背景にあることなどの記述をしている。 (C) グループワークでの学び合いを通じて、助言を受けることを促すなどの支援を行う。	・ワークシートI問1～4への取り組みを基に評価する。 ・ワークシートI問5の記述を基に評価する。

<p>第2次 (0.5時間)</p>	<p>【学習課題】「ハワイと北米大陸でどのような日系人排斥が行われたのか。」</p> <p>・第二次世界大戦と日系人</p>	<p>【ねらい】 史資料を基に、第二次世界大戦中の日系アメリカ人のおかれた状況を考察する。 ・映像資料から、第二次世界大戦中の日系人排斥の実態を読み取る。</p> <p>・第二次世界大戦中の日系人のおかれた状況が、ハワイと西海岸で異なることを理解する。</p>	<p>●</p> <p>○</p>	<p>(B) 映像資料の要点が読み取れている。 (C) 資料の要点を再確認させるなどの支援を行う。 5 (1) 参照</p>	<p>・ワークシート I 問 6・7 の記述を基に評価する。</p> <p>・ワークシート I 問 8・9 の記述を基に評価する。</p>
<p>第3次 (1時間)</p>	<p>【学習課題】「二人の日系アメリカ人がアメリカ社会に認められたことから得られる教訓は何か。」</p> <p>・二人の日系アメリカ人の生き方</p>	<p>【ねらい】 二人の日系アメリカ人に関する史資料を比較し、二人がどのような価値観に基づいて行動したのかを考察する。 ・資料の要点を要約する。 (前時の最後に資料を配付し、自宅学習課題として取り組ませる)</p> <p>・アメリカ合衆国の日系人受容の様相の変化をまとめる。</p>	<p>● 技</p> <p>○</p>	<p>(B) 資料にある二人の行動について、普遍的な価値観や人権思想に着目して社会貢献や公正の実現などの例を提示しながら記述している。 (C) 他の生徒の解答例を複数例示し、適切な考察を促すなどの支援を行う。 5 (2) 参照</p>	<p>・ワークシート II 問 10・11 の記述を基に評価する。</p> <p>・ワークシート II 問 12 の記述を基に評価する。</p>
	<p>・現代の移民受け入れ問題</p>	<p>【ねらい】 これまでの学習活動を基に、21世紀の日本における移民受け入れの課題と解決の見通しを考察する。 ・日本で労働力が求められている分野を考察する。 ・日本における移民受け入れの課題と解決策を考察し、自分の言葉で表現する。 ・本単元の学習活動を振り返り、今後の学習課題をあげる。 (自宅学習課題)</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>5 (3) 参照 5 (4) 参照</p>	<p>・ワークシート III 問 14 の記述を基に評価する。 ・ワークシート III 問 15 の記述を基に評価する。</p>

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

- ア 二人の日系アメリカ人に関する史資料を比較し、二人がどのような価値観に基づいて行動し、アメリカ社会がそれをどう受容したかを考察する。
- イ アメリカ合衆国における移民排斥とその後の変容の事例を基に、現代日本の移民受け入れ問題における課題を意識し、その解決の見通しを構想する。

(2) 本時の展開

(○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	<p>・二人の日系アメリカ人の生き方 (事前課題の学習成果の発表)</p>	<p>・前時に配付された事前課題ワークシートへの各自の取り組みをグループワークで比較し、相互評価する。 (予想される生徒の反応) ・他の生徒の記述から、自分の気付きにない点を見つけ出すことで、資料をより多面的に理解する。</p>	<p>・ワークシート II は前時に事前課題として提示する。自宅で資料文を読み、問10～12の解答しておくよう指示する。</p> <p>●ワークシート II 問10・11 【知識・技能】</p>

展開	<ul style="list-style-type: none"> 二人の日系アメリカ人の生き方 現代の移民受け入れ問題 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークでの比較を基に、各自で、アメリカ合衆国における日系人受容の様相の変化をまとめる。 (予想される生徒の反応) 資料の要点となる箇所について、グループワークを通じて共通理解をもち、その要点をまとめる表現を考察する。 グループごとに、日本で労働者が不足している職種を挙げ、その共通点を考察する。 21世紀の日本における移民問題の課題と解決の見通しを話し合い、自分の考えをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークで得た気づきを基に、自分の解答を適宜、加筆訂正するよう助言する。 ○ワークシートⅡ問12 【思考・判断・表現】 机間指導をし、多様なキーワードが挙げられるよう助言する。 各グループであがった解答を発表させ、全体の共通理解を促す。 グループワークから適宜、個々の学習活動へ移行するよう助言する。 ○ワークシートⅢ問14 【思考・判断・表現】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめと課題の指示 	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国における移民問題に気付くこととその後の変容を学ぶことが、現代の課題を考える材料となることに気付く。 授業終了後に各自で今回の学習に関連するニュースを調べ、学習活動で得た成果を基に主体的に探究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートⅢ問14が未完成の者には自宅続きを記入するよう指示する。 本時終了後に、学習内容と関連するニュースを調べるよう指示し、ワークシートに記載して次回授業時に提出させる。 ○ワークシートⅢ問15 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 本時の評価規準(「5 評価問題(評価材料)及び評価規準」の(2)及び(3)参照)

5 評価問題(評価材料)及び評価規準

(1) ワークシートⅠ問8・9 【思考・判断・表現】

評価規準

「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・ハワイと西海岸における日系人排斥について、人口規模に着目して強制収容の程度が異なることや、一世と二世の間に意識の違いがある点を記述している。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・ハワイと西海岸や東海岸における日系人排斥の様相の違いについて、人口規模や地理的条件に着目して強制収容の程度が異なることや、一世と二世とでアメリカ人としての帰属意識が異なるなどの点を具体的に比較しながら、適切な記述をしている。
「努力を要する」状況(C)と判断される生徒の例と教師の指導
・「おおむね満足できる」状況に到達できない → 個別の助言を、回収したワークシートに記入するなどの支援を行う。

(2) ワークシートⅡ問12 【思考・判断・表現】

評価規準

「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・アメリカ合衆国の移民受け入れについて、時間的な推移に着目して記述している。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・アメリカ合衆国の移民受け入れについて、例示した二人の日系人の考え方の違いを公正に評価しつつ、時間的な推移に着目して言語の問題や社会貢献の様相・普遍的な人権意識の拡大などの例を提示しながら記述している。
「努力を要する」状況(C)と判断される生徒の例と教師の指導
・「おおむね満足できる」状況に到達できない → 個別の助言を、回収したワークシートに記入するなどの支援を行う。

(3) ワークシートⅢ問14 【思考・判断・表現】

評価規準

「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・移民受け入れについて、考えられる課題を例示し、その解決に向けた見通しを表現している。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・移民受け入れについて、提示された参考語句を適切に理解した上で、考えられる課題を適切に例示し、その解決に向けた具体的かつ説得力のある見通しを表現している。
「努力を要する」状況(C)と判断される生徒の例と教師の指導
・「おおむね満足できる」状況に到達できない → 望ましい解答を複数例示しつつ、回収したワークシートに個別の助言を記入するなどの支援を行う。

(4) ワークシートⅢ問15 【主体的に学習に取り組む態度】
評価規準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・学習内容を踏まえた形で現在の関連事項を見だし、概要を調べている。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・学習内容に即した形で、現在の関連事項を見だし、その特徴や問題点を学習内容と関連付けて探究している。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・「おおむね満足できる」状況に到達できない →ワークシートの記述を基に、今後の課題の例を例示する。

6 成果と課題

- ・現代的な移民問題と歴史上の移民問題を関連付ける中で、日本人が移民として外国に渡った事例を取り上げることは、生徒の意識の逆転を図る上で有効であると考えた。特に、アメリカ合衆国における日系人の生き方を複数提示できたことは、生徒の多角的な思考を促す上で意義があった。
- ・しかし、1年生での実践のためか、想定以上に移民排斥を肯定する意見が多く、公民科目との連携が重要であると感じた。現代の移民問題については、あくまで日本が「移民を受け入れてやる」という「上から目線」の考察もあった。これは、日系移民を排斥したアメリカ人の立場を基に考察を進めたためでもある。生徒には移民の立場と受け入れ側の立場、双方からの考察を期待したが、その意図と異なる学びを許容する形になったのは大きな反省である。問12でアメリカの日系移民に対する世論が変化した歴史的事実を丁寧に確認することで、生徒に移民の受け入れが一つの潮流であることを認識させるべきであった。また、日本が外国人労働力を必要としている現状を理解させるためにはもう少し工夫が必要であった。加えて、日本と外国の言語的な差異に注目できた考察は多く見られたが、翻訳技術などの科学技術のみで対応できるという認識も目立った。文化的・生活習慣的な差異により生じる諸課題には具体的なまなざしを向けられない生徒が多く、机間指導で最も助言した部分であった。
- ・実践後、奇しくも真珠湾攻撃から80年、そして日系人の名を冠した初のアメリカ軍艦の誕生ということでダニエル=イノウエが複数のメディアで取り上げられ、生徒の関心を引くこととなった。
- ・現実の課題と歴史の関連性という点では、授業の導入をこうした直近のニュースから入ることも重要である。また、移民問題に対する問いかけも、オープンエンドを意識する今回の展開とは別に、「歴史から何を学び、何を繰り返さないようにすべきか」という誘導的な展開でも十分効果的であるかもしれない。歴史総合で類似の実践をする際の考慮事項としたい。
- ・今回、新学習指導要領と観点別評価を意識した形で評価計画を作成したが、「主体的に学習に取り組む態度」をどの場面で評価し、なおかつ「評定に用いる評価」に適した評価規準とするかが大きな課題であった。研究協議会で検討を行い、単元の学習終了後に、学んだ内容を基に現実の諸課題について考察することを評価場面とした。
- ・生徒はおおむね何らかの課題を記述したが、中には類似した記述も多く、本来あるべき「解決の見通し」を意識できた記述は少なかった。1年生段階のため、具体的な解決の構想を求めることは難しいと思われるが、もう少し丁寧な指導を行い、学習内容との関連付けを図るべきであった。
- ・歴史総合という新科目でこの実践を行う場合、科目の特性上、特定の単元に当てることができる授業時間数に制限がある。そこで、資料読解を自宅学習課題とすることで、授業時間を有効活用できるようにした。そのため、当初は4時間程度の展開を想定していたが、実際には2時間であった。反転学習の概念を援用することで、限られた時間内でも十分に学びを深めることができるよう工夫することは、限られた授業時間で幅広い内容を扱う歴史総合においては有意義である。
- ・しかし、生徒の解答を生徒間で共有する時間が十分確保できなかったことは今後の課題である。一部の設問は解答をロイロノート等で提出させるなどの工夫を加えれば、生徒が迅速に他の生徒の解答を見ることとなり、さらなる深い学びが実現できる。また、今回の実践のように2時間で完結するのではなく、もう少し広い視野で、いわゆる「単元を貫く問い」を設定し、近代化や大衆化といった歴史総合ならではの大きなテーマを繰り返し多角的に考察する単元構想の設定も重要である。

7 参考文献

- ・『二世兵士激戦の記録 日系アメリカ人の第二次大戦』（柳田由紀子、新潮社、2012年）
- ・『正義をもとめて 日系アメリカ人フレッド・コレマツの闘い』（ステイヴン・A・チン、金原瑞人訳、小峰書店、2000年）
- ・DVD『442日系部隊 アメリカ史上最強の陸軍』（ワック株式会社、2011年）
- ・DVD『映像の世紀』5巻・11巻（NHK、1995年、2000年）
- ・wikipedia「ダニエル・イノウエ」（<https://ja.wikipedia.org/wiki/ダニエル・イノウエ>）
- ・教科書『改訂版 世界史A』（第一学習社）
- ・副教材『ニューステージ世界史詳覧』（浜島書店）
- ・教科書『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』（山川出版社）
- ・教科書『高等学校 歴史総合』（第一学習社）